

3. 研修事業の本格的始動

(1) 生命保険セミナー(OLIS: Oriental Life Insurance Seminar)の開催(1973年-)

生命保険セミナーの開催

当財団設立当初の研修生受け入れは、韓国・台湾および当時米国の統治下にあった沖縄の生命保険会社などの役職員を対象として小規模で行ってきた。昭和48年(1973年)に至り、



当財団が立案計画した独自のセミナー体系に基づき効率的な研修を行うため、対象をアジア諸国に広げ、生命保険会社、再保険会社および監督官庁の役職員を対象としてアジア生命保険セミナー(OLIS: Oriental Life Insurance Seminar)を新設し、春期および秋期の年2回、それぞれ約1か月半にわたって定期的で開催してきた。

OLIS Spring 集合写真(1980年)

講義は当財団と協栄生命の協力により運営され、OLISの講師は協栄生命の現役の課長以上が担当し各テーマの講義を行い、講義終了後には3時間程度の討議が織り込まれていた。この討議の実施は、日本側に対する質疑および参加者相互の有効的かつ活発な時間として利用され、当講義の特徴の1つであった。討議の議長、副議長、書記は受講者が担当し、日本側から担当講師のほか協栄生命の役員、部長および当財団の役員が参加して行われていた。講義はすべて英語で行われるので、当財団および協栄生命職員のうち経験を積んだ英語の通訳のできる職員をセミナーの通訳者としてすべての講義と討議に参加させ、セミナーの円滑進行を図っていた。



OLIS 講義風景

OLISの講義内容は、日本について、日本の生命保険、保険料の仕組み、死亡率、営業業務、営業教育、新契約、医的査定、保険料収納、保険金支払、団体保険、法務、財務、生命再保険、機械化、社会保険などについて行われた。このほか研修日程の中には、観光旅行や協栄生命の年金ホーム、健康管理センターなどの施設の見学および懇親会などのプログラムをあらかじめ組み込み、相互の親睦と交流を図っていた。なお参加者に対しては宿泊施設を提供し、滞在期間中の宿泊や食事に対する経費は当財団が負担した。



春のお花見風景



カラオケ風景

昭和 63 年(1988 年)からは研修計画の専門化と個別指導に重点をおき、従来の OLIS セミナーの内容を充実させ、中級セミナーとして位置づけ年 1 回の開催とした。



OLIS 1997 The Opening Ceremony April 2 1997

OLIS セミナー(1997 年)

その後、OLIS セミナーは生命保険全般の知識習得を目的で開始され、当財団の研修事業の中核として高い評価を受けることとなっていくが、アジア諸国の生命保険についての基礎知識レベルが底上げされた状況を鑑み、平成 17 年(2005 年)には専門セミナーと統合され、特定テーマに焦点を当てた年複数回開催のセミナーへと改定された。

また、平成 11 年(1999 年)度から中国からの要請を受けて特別セミナーへの研修生受け入れを展開してきたが、毎年 20 名以上の研修生が参加するようになってきたため、平成 19 年(2007 年)度からは上海财经大学との協働で中国語による OLIS China セミナーを開催することとした。このセミナーは平成 24 年(2012 年)度まで継続され、中国語圏の研修生から高い評価を受けた。



OLIS Chinese セミナー(2010 年)

生命保険セミナー(OLIS)の開催

年度	回数	時期/テーマ	期間	参加国数	参加者数
昭和 48 年 (1973 年)	2	春秋	各 1.5 月間	6 カ国	32 名
昭和 49 年 (1974 年)	2	春秋	各 1.5 月間	7 カ国	16 名
昭和 50 年 (1975 年)	2	春秋	各 1.5 月間	5 カ国	20 名
昭和 51 年 (1976 年)	2	春秋	各 1.5 月間	7 カ国	23 名
昭和 52 年 (1977 年)	2	春秋	89 日間	6 カ国	22 名
昭和 53 年 (1978 年)	2	春秋	86 日間	7 カ国	21 名
昭和 54 年 (1979 年)	3	春秋冬	119 日間	7 カ国	37 名
昭和 55 年 (1980 年)	2	春秋	85 日間	7 カ国	27 名
昭和 56 年 (1981 年)	2	春秋	87 日間	7 カ国	32 名
昭和 57 年 (1982 年)	2	春秋	86 日間	7 カ国	37 名
昭和 58 年 (1983 年)	2	春秋	88 日間	7 カ国	37 名
昭和 59 年 (1984 年)	2	春秋	86 日間	7 カ国	31 名
昭和 60 年 (1985 年)	2	春秋	89 日間	6 カ国	35 名
昭和 61 年 (1986 年)	2	春秋	88 日間	6 カ国	30 名
昭和 62 年 (1987 年)	2	春秋	87 日間	7 カ国	40 名
昭和 63 年 (1988 年)	1	春	44 日間	7 カ国	18 名
平成 1 年 (1989 年)	1	春	44 日間	7 カ国	28 名
平成 2 年 (1990 年)	1	春	44 日間	7 カ国	31 名
平成 3 年 (1991 年)	1	春	44 日間	8 カ国	29 名
平成 4 年 (1992 年)	1	春	44 日間	6 カ国	27 名
平成 5 年 (1993 年)	1	春	24 日間	7 カ国	30 名

平成 6 年 (1994 年)	1	春	24 日間	9 カ国	26 名
平成 7 年 (1995 年)	1	春	24 日間	9 カ国	29 名
平成 8 年 (1996 年)	1	春	24 日間	9 カ国	29 名
平成 9 年 (1997 年)	1	春	24 日間	10 カ国	33 名
平成 10 年 (1998 年)	1	春	25 日間	10 カ国	21 名
平成 11 年 (1999 年)	2	春秋	46 日間	9 カ国	43 名
平成 12 年 (2000 年)	2	春秋	49 日間	11 カ国	48 名
平成 13 年 (2001 年)	専門セミナー、特定科目セミナーの開催のみ				
平成 14 年 (2002 年)	1	春	18 日間	10 カ国	33 名
平成 15 年 (2003 年)	1	秋	18 日間	9 カ国	34 名
平成 16 年 (2004 年)	1	春	15 日間	10 カ国	30 名
平成 17 年 (2005 年)	4	5 月/経営全般 6 月/営業 9 月/リスク管理 11 月/年金	各 7 日間	14 カ国	125 名
平成 18 年 (2006 年)	4	5 月/リスク管理 6 月/営業 10 月/商品 11 月/営業	各 7 日間	13 カ国	101 名
平成 19 年 (2007 年)	4	6 月/リスク管理 China/日本生保事情 10 月/生保業界動向 11 月/リスク管理	各 6 日間	10 カ国	102 名
平成 20 年 (2008 年)	3	China/日本生保事情 春/営業 秋/リスク管理	各 6 日間	13 カ国	94 名
平成 21 年 (2009 年)	3	春/金融危機における生保ビ ジネス China /営業 秋/基本回帰	各 6 日間	15 カ国	112 名
平成 22 年 (2010 年)	3	春/営業戦略 Chinese /営業戦略 秋/経営戦略	各 6 日間	17 カ国	123 名
平成 23 年	東日本大震災のため国内セミナーは開催せず				

(2011年)					
平成24年 (2012年)	1	Chinese/生保営業の課題	6日間	3カ国	25名
平成25年 (2013年)	2	夏/販売の現状 秋/シニアマーケット	各6日間	14カ国	90名
平成26年 (2014年)	3	春/顧客保護 Indonesia/ALM 他 秋/リスク管理	6日間 1日間 6日間	16カ国	134名
平成27年 (2015年)	2	春/販売チャンネルとトレーニング ～顧客保護と適正販売 秋/リスク管理	各6日間	16カ国	96名
平成28年 (2016年)	2	春/チャンネル別営業戦略 秋/生命保険会社のオペレーション	各6日間	16カ国	107名